

レバノンの政治的認知地図（2012）

青山弘之（東京外国語大学総合国際学研究院准教授）

浜中新吾（山形大学地域教育文化学部准教授）

本報告は、科学研究費補助金（基盤研究(B)）[「世論調査による中東諸国民の政治意識と政治体制の相互関連の解明」](#)（研究代表者：浜中新吾）が2012年4月から8月にかけてパレスチナとレバノンで実施した[「パレスチナ・レバノン同時世論調査\(2012\)」](#)における「レバノン世論調査(2012)」の結果をもとに、同国民の政治的認知地図を描出することを目的とする。政治的認知地図とは本報告共著者既発表論文（[「シリア国民の「政治的認知地図—世論調査の計量分析から読み解く政治意識—」](#)『現代の中東』第46号、2009年1月、pp. 2-21.）で提起した概念であり、地域の安定化への各国の貢献度に対する国民の評価の全体像を意味し、世論調査データの計量分析を通じて図として表される。

描出の手順

政治的認知地図描出に手順は以下の通り。

- ① 「パレスチナ・レバノン同時世論調査(2012)」の「レバノン世論調査(2012)」における質問「4. 以下の国々は、中東地域の安定を実現するための政治的課題の解決にどの程度寄与していると思いますか」（質問票（アラビア語、日本語訳））の回答（単純集計）を集計して、各国別の評価（平均値）を算出する。
 - 質問の選択肢「1. 強く思う」を5点、「2. 思う」を4点、「3. どちらとも言えない」を3点、「4. あまり思わない」を2点、「5. まったく思わない」を1点として計算し、「6. 分からない」と「無回答」は欠損値とする。
- ② 回答に因子分析を行い、抽出した因子を解釈する。
 - 因子の抽出は主因子法とする。
 - 軸の回転はプロマックス法とする。
 - 因子の固定数：抽出する因子を3つとする。
 - 質問3-2の選択肢のうち「6. 分からない」、「無回答」は欠損値とし、平均値で置

換。

③ 抽出された因子のポジショニングからパターン行列を散布図に作図する。

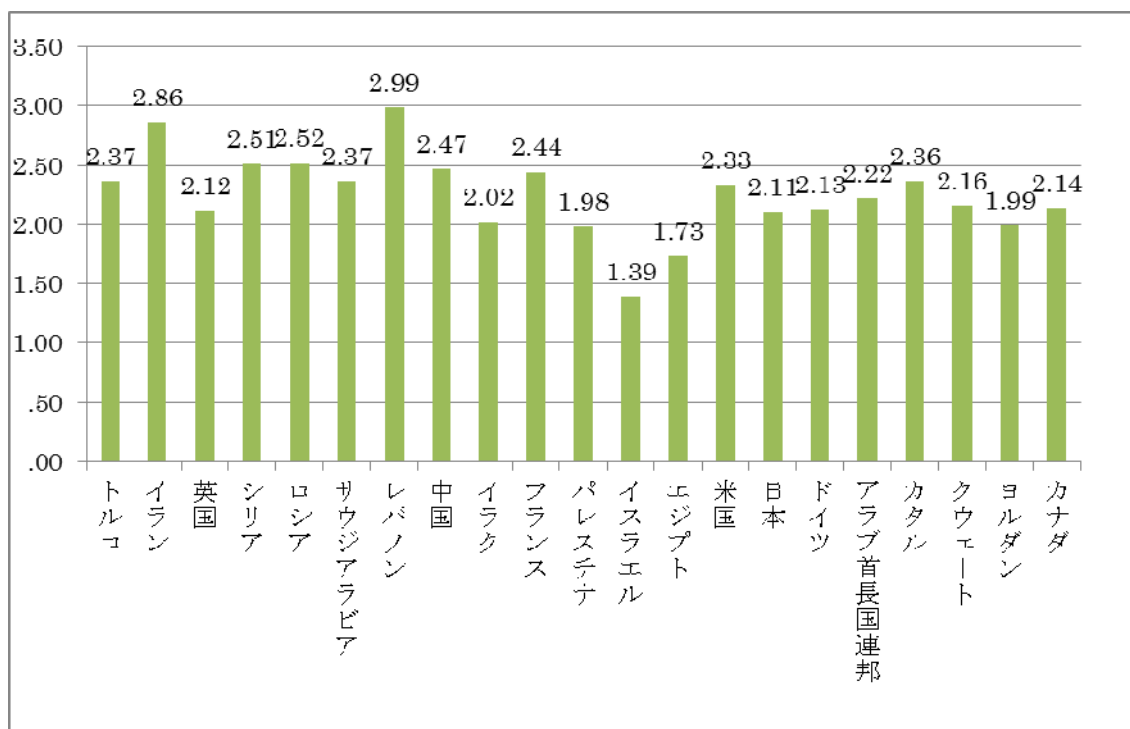
- X軸に第1因子、Y軸に第2因子を置く。
- 因子負荷量をプロット。

④ 第1、2因子のパターン行列に階層クラスター分析を行い、グループ化。

- 階層クラスター分析の方法はウォード法とする。
- 測定法は平方ユークリッド距離とする。
- 作図はデンドログラムとする。
- グループ化はクラスター凝集経程工程の第3段階をもって行う。

各国別の評価（平均値）

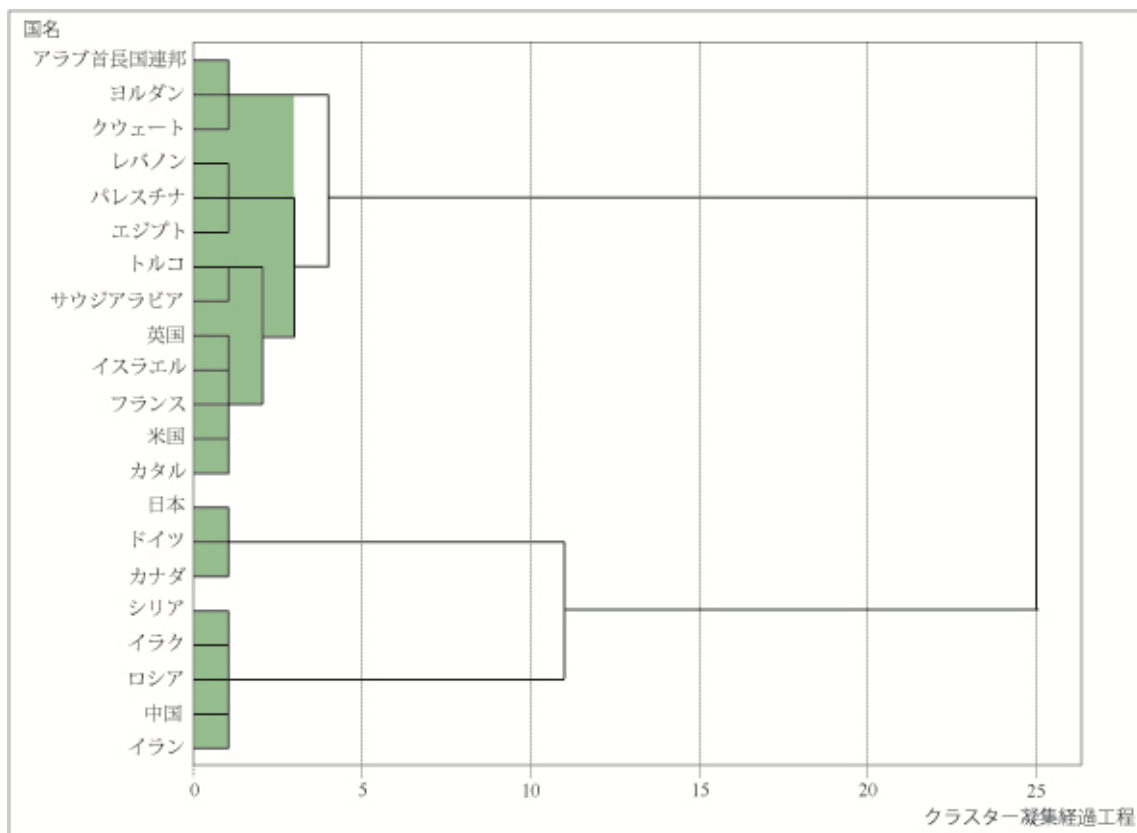
国名	平均値
トルコ	2.37
イラン	2.86
英国	2.12
シリア	2.51
ロシア	2.52
サウジアラビア	2.37
レバノン	2.99
中国	2.47
イラク	2.02
フランス	2.44
パレスチナ	1.98
イスラエル	1.39
エジプト	1.73
米国	2.33
日本	2.11
ドイツ	2.13
アラブ首長国連邦	2.22
カタール	2.36
クウェート	2.16
ヨルダン	1.99
カナダ	2.14



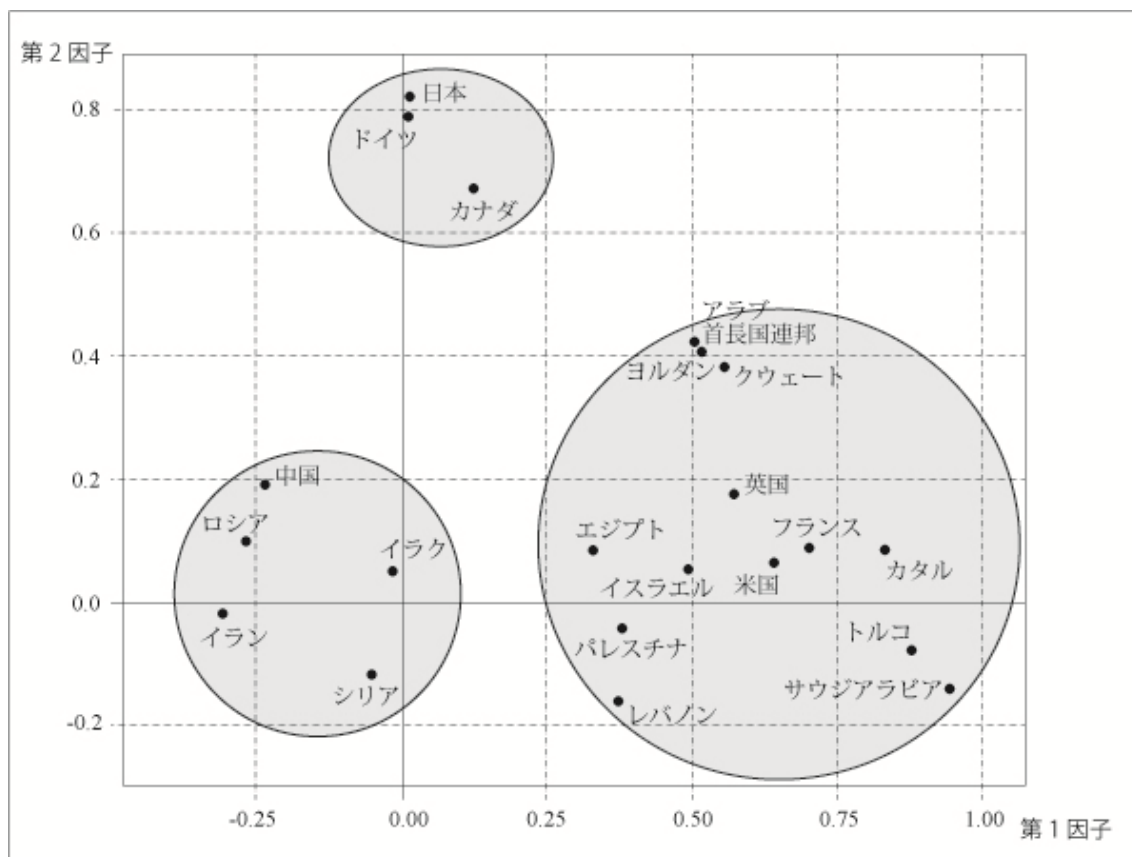
因子分析結果（パターン行列）

	第1因子	第2因子	第3因子
	東アラブ地域の派遣	レバノン政治への関与	
トルコ	0.879	-0.079	0.083
イラン	-0.306	-0.016	0.606
英国	0.574	0.175	-0.127
シリア	-0.050	-0.118	0.744
ロシア	-0.267	0.100	0.685
サウジアラビア	0.944	-0.141	0.100
レバノン	0.374	-0.160	0.658
中国	-0.235	0.192	0.628
イラク	-0.015	0.051	0.687
フランス	0.704	0.089	-0.009
パレスチナ	0.378	-0.044	0.588
イスラエル	0.495	0.052	0.079
エジプト	0.327	0.085	0.351
米国	0.644	0.065	-0.166
日本	0.014	0.820	0.005
ドイツ	0.011	0.788	-0.021
アラブ首長国連邦	0.504	0.421	0.048
カタール	0.831	0.085	0.020
クウェート	0.557	0.381	0.035
ヨルダン	0.518	0.407	0.019
カナダ	0.123	0.671	-0.003

階層クラスター分析結果（デンドログラム）



政治的認知地図



2012年12月作成